

授業作り	重点	・基礎学力の定着と確かな学力の育成を目指す。特に英数では、習熟度別授業の特性を生かし、個の能力に応じた学力の定着を図る。 ・毎時間の授業で授業スタンダード（始めにねらいの提示をする。→ねらいに合わせた振り返りをしてまとめる）の徹底をすべての教科で行う。
環境作り		・小グループにおける教師相互の授業観察を行う。 ・ディスプレイ型電子黒板とホワイトボードを併用し、見やすく分かりやすい授業を目指す。 ・一人1台のタブレット端末を活用し、自学自習の意欲を促す。また、長期休業中の課題や、授業内、家庭にて取り組めるデジタルドリル等の課題を提示する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	新宿区学力定着度調査において、「知識・技能」は区、全国共に平均を上回る。新2年の「思考・判断・表現」のみ、区の平均を下回った。特に「書くこと」領域の正答率が区の平均を著しく下回っており、今後の課題である。	「知識・技能」の向上を目指して、日々の家庭学習（漢字練習や意味調べ）を今後も継続する。また、文章読解や自分の考えをまとめるためにも、語彙を豊かにする取り組みを行い、なぜそのような考えになったか根拠を明確にするよう指導していく。 書くことの領域においては、考えが明確になるように、語と語や文と文との続き方に注意して文章を読み返す習慣を育む。	①家庭学習の継続 ②デジタルドリルの活用 ③国語辞典の活用
数学	新宿区学力定着度調査において、新3年においてはどの観点、領域においても区の平均を上回っている。新2年においては「数と式」の領域において区平均と比べ低いことが課題である。	「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の向上を目指し、授業内では問題演習に割く時間を多くとり、家庭学習などの課題では、反復して取り組めるデジタルドリルなどを今まで以上に活用していく。	①家庭学習の継続 ②授業内での問題演習の時間の確保 ③デジタルドリルの活用
理科	新宿区学力定着度調査において、1・2年の領域では区の平均を上回っているが、観点においては、新3年は上回っているものの、新2年で「思考・判断・表現」の観点が0.2ポイント下回っていることが課題である。	実験・観察を通して、興味・関心を生徒にもたせることで、科学的な原理・現象の理解を深める。また、生徒に授業を主体的に受けさせる指導を目指す。ICT機器を活用して、協働的な授業を行うとともに、個別最適な授業を工夫して行い、基礎・基本、知識の定着を図る。また、「思考・判断・表現」の能力向上に向けて、知識だけでは解けない問題を扱っていく。	①ICT機器の活用 ②協働学習支援アプリの活用 ③デジタルドリルの活用
社会	新宿区学力定着度調査において、新3年は、いずれの観点・領域においても区平均を上回っている。特に、「思考・判断・表現」の観点は区平均を大幅に上回っている。新2年は、領域では地理的分野を除き、観点・領域ともに区平均を下回っている。歴史的分野が区平均を下回っており、歴史的分野の基礎力向上が課題である。	「知識・技能」の向上のために、復習小テスト・ICT機器の活用等、反復して基礎知識を定着する機会を設ける。 「思考・判断・表現」の向上のために、調査→思考→アウトプットを行う活動型授業を、単元を見通して取り組む。思考する中で、基礎・基本、知識の定着を目指す。	①ICT機器活用の継続 ②授業内での復習問題演習の時間の確保 ③デジタルドリルの活用④復習小テスト・ドリルを行う
英語	新宿区学力定着度調査において、「知識・理解」、「思考・判断・表現」の観点共に区、全国の平均を越えている。 新2年は「書くこと」の正答率が他の学年と比べて低いことが課題である。	英文を書く上で、語順等を踏まえた基礎・基本の徹底を図る。また帯学習でテーマについて話し合やす活動を通して、自身の考えを深めつつ、それを英文で書かす活動を定期的に取り組ませる。	①チャット活動（帯学習） ②教科書の各単元の後にあるトピックについて自身の考えを書かせ、添削して返却する活動を作る。